

写真



広島文教女子大付属高で体験した日本文化。日本の女性(右端)が勇壮に和太鼓を演奏する姿は、選手に刺激を与えた (17日)



初めての浴衣の着付けに、選手と生徒に笑顔があふれた (17日)



慣れない正座で茶道にチャレンジ。作法は少し難しい? (17日)



中国新聞 SELECT

アンジュヴィオレ広島との親善試合。アブドゥルマフフーズ主将③たち選手は赤いスカーフとタイツで素肌を隠し、懸命にプレーした (9月20日)



国連訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所の招きで、広島市内で研修したアフガニスタンのサッカー女子代表チーム。被爆地で70年前の悲しい歴史を学ぶとともに、発展を遂げた街の姿に励まされた。日本文化を体験する中で、同年代の女子高校生と深めた交流は、友好の証しに。アンジュヴィオレ広島との親善試合や、広島東洋カープの試合観戦では、スポーツを通して平和を築く可能性を実感した。6面関連。

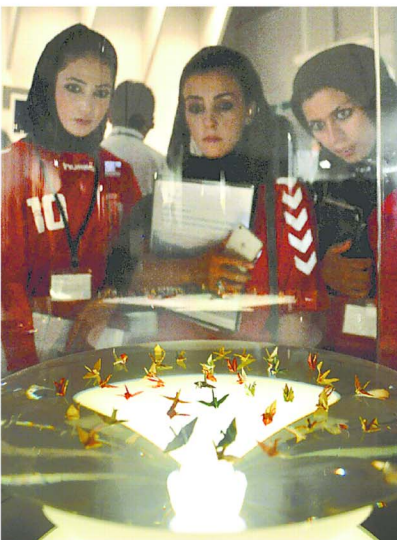
(撮影・福井宏史、増田智彦、荒木肇、浜岡学、文・山本祐司)

# 平和へのパスワーク

## サッカーアフガン女子代表広島で研修



ボールに夢を乗せて一。マツダスタジアムで子どもにサッカーを教える選手たち (21日)



原爆資料館で、佐々木禎子さんが残した折り鶴に見入る選手 (16日)



カープ戦であった花束贈呈。大舞台上でファンを魅了する選手になることを誓った (21日)

「あの日」の惨状を話す被爆者の小倉桂子さん(手前中央)の証言に耳を傾ける選手たち (16日)